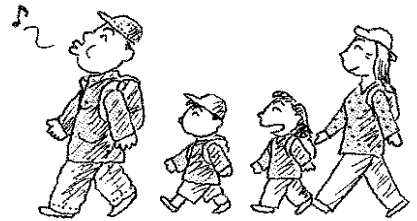


～ 館山銀座商店街ふれあいまつり ～

北条まちなか発見ウォーク



日時：2006年8月5日(土) 13:30～

主催：NPO 法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム

なんじゅあん

A 南壽庵

1883(明治 16)年富国強兵のために設立された日本初の電力会社、(株)東京電燈の別荘として建設され、皇族や文人墨客が訪れたという。後に、日本を代表する館山の企業、(株)池貝鉄工館山工場から富士ディーゼル(株)の寮として使われていた。1924(大正 13)年に弓道倶楽部が結成されて本格的な現代弓道が始まり、南壽庵に隣接した辰野銀治郎邸に安房初の辰野弓道場が造られた。訪れた芳名録には著名人や高等師範の関係者、渡洋爆撃出撃前の館空所属のパイロットなどの記名がある。

いけがいしょうたろう
池貝庄太郎

1869(明治 2)～1934(昭和 9)

鋸南町下佐久間出身。横浜の西村機械製作所で旋盤師として腕をあげ、田中久重の芝浦製作所(現東芝)の下請けとして技量を磨き、1889(明治 22)年に東京で池貝鉄工所を立ち上げた。国産旋盤第1号、セミディーゼル機関、ガソリン石油機関をはじめ 100 以上の特許を取得して、日本の機械工作分野を開拓した。1943(昭和 18)年、八幡海岸に軍需工場として池貝鉄工所館山工場が稼働したものの、終戦となり、混乱期のなかで館山工場は分離独立して、'47(昭和 22)年に池貝館山製作所となった。その後、(株)館山製作所と改称、56(昭和 31)年には富士ディーゼル(株)となり、船舶や発電機関係のディーゼルエンジンの中堅トップメーカーとして、国内だけでなく海外に向けても販路を広げていった。しかし水産業の不振、長期構造不況の中で、'90(平成 2)年に解散。

B 木村屋旅館跡

1880(明治 13)年から'84(明治 17)年にかけて、北条村で自由民権の講演会が開かれているが、木村屋旅館でも開催された。1911(明治 44)年、鉄道総裁後藤新平が鉄道敷設視察のため木村屋旅館に宿泊した際、加藤音城北条町長が訪ねて国鉄北条線の開通と北条停車場設置を訴え、'19(大正 8)年に開通が実現、安房北条駅開業。戦前は、慶應義塾体育会レスリング部が木村屋旅館で合宿をし、安房水産学校の剣道場にマットを持ち込んで練習を行っていたという。'45(昭和 20)年 8 月 30 日、外務省の終戦連絡委員会が設置され、市民を代表して館山病院長の川名正義氏が呼ばれた。

ふみこ
林美子

1903(明治 36)～1951(昭和 26)

小説家、代表作『放浪記』。1951(昭和 26)年『文芸春秋』3月号で発表した「房州白浜海岸」に次のような記述がある。「...両国から、二時五十分の汽車に乗った。大寒にはいった寒い日で、しんと冷える。...此間、皇太子殿下がお泊りになった、木村屋旅館といふのがいいでせうと教へて貰った。...船形、那古を過ぎて館山である。古びた、かなり大きい駅であった。暗い駅の前の広場には、三台ばかり、近代的な大型バスが連結してゐた。...二三軒の商店で道を聞いてみても、何処でも往来まで走って出て来られたのには、感心してしまった。...」

C 日本聖公会 聖アンデレ教会

千倉大貫で伝道を始めた医師秦呑舟が 1887(明治 20)年に建てた安房第一大貫キリスト教会に続き、'97(明治 30)年に笛木角太郎が北条町を中心に伝道を始め、北条北町に講義所を設立、1902(明治 35)年に新塩場へ移転、'08(明治 41)年には六軒町へ移転し、教会を組織する(同年、光田鹿太郎が千葉県育児園を開設)。'11(明治 44)年、六軒町に安房第二北条キリスト教会を設立。'23(大正 12)年、関東大震災で倒壊、翌年、教会堂を再建し、聖アンデレ教会とする。

コルバン医師夫妻 夫:ウィリアム? ~1916(大正 6) 妻:ソフィア 1863(文久 4) ~1940(昭和 15)

1894(明治 27年)に結婚後、夫婦ともに福音宣教、医療伝道に専念。北海道での活躍後、1905(明治 38)年に夫が脳溢血の中風となり、転地療養のため八幡海岸で静養。当時、周辺には療養中の結核患者が多く、一高や外国語学校の寄宿舎もあり、宣教活動を行なう。任地函館と英国を往復するが、病状悪化に伴い、'09(明治 42)年に宣教師を辞し英国に帰国。しかし'12(明治 45/大正元)年に再来日、自給宣教師として生きる決意をし、八幡海岸に結核療養者のための養生院(コルバンホーム)を建て、北条町のキリスト教会(後の聖アンデレ教会)で伝道に尽力した。この年、石川啄木が死去し、妊娠中であり結核患者となった節子未亡人がコルバン夫妻を頼って来館、夫妻の紹介により八幡海岸の片山かの宅で療養、次女・房子を出産した。震災後も医療伝道を続け、南三原に教会と幼稚園を設立し、伝道を広めるとともに、安房地域の幼児教育にも貢献した。夫婦とも、城山麓のキリスト教共同墓地に永眠。

D まち医者通り (館山市安房郡医師会館跡)

1947(昭和 22)年、館山市安房郡医師会設立。翌年、新塩場に県内で2番目の医師会館を開く。地域医療充実のため、'64(昭和 39)年、湊地区に安房医師会病院(安房医療センター)を設立、医師会館も同地に移転。安房医師会病院は、2000(平成 12)年に山本地区へ移転。

'56(昭和 31)年の「市勢要覧商工名鑑」を見ると、北条地区には安藤医院・小谷医院・川名医院・清川医院・小松医院・斎藤同愛医院・斎藤眼科医院・白幡医院・千本医院・田村病院・北条病院・村松医院・山田医院・館山保健所・鉄道診療所・清水医院・石井歯科・門田歯科・鈴木歯科・高木歯科・安西歯科・常泉歯科・小泉歯科・平島歯科・吉田歯科・高木歯科・高幣接骨院などの記載がある。

つのだけいいち

角田佳一 1855(安政 2) ~ 1919(大正 8)

南三原村生まれ。東京帝国大学別科卒。高知県立高等医学校教諭および同校付属病院医師となり、1883(明治 16)年、南三原村で開業。安房郡部医会設立に寄与し、同会会頭を歴任。県立千葉病院分院として設立され、安房郡立病院となり、次いで北条村立病院となったものを、'89(明治 22)年に譲り受け、医療設備充実の基礎を築いた。日清戦争従軍者の留守家族には無料で治療を施した。安房郡医師会結成後は副会長となり、医師の研修会等を積極的に実施。急患には深夜を問わず駆けつける親身な治療に、地域社会からの人望は厚かった。墓は法性寺。

もろくませいざぶろう

諸隈清三郎 1875(明治 8) ~ 1944(昭和 19)

佐賀県生まれ。1895(明治 28)年、慈恵院医学専門学校卒業後、千倉町の医院に勤務。翌々年に順天堂医院に招聘された後、日本郵船会社の船医となり、東京都芝区で開業。1906(明治 39)年、北条町 1765 番地へ移転開業。大震災の際、20 日余りも寝食を忘れて献身的に負傷者の治療にあたった功績は大きい。キリスト者として、聖アンデレ教会の再建にも尽力した。

E 千葉県育児園跡 (県内初の孤児院)

みつだしがたろう

光田鹿太郎 1880(明治13)～？

1880(明治13)年、岡山生まれ。石井十次(1862～1914)が始めた岡山孤児院(1887 設立)で事務を執り、鎌倉・東京を経て、1916(大正5)年、北条町新塩場に千葉県育児園(県内初の孤児院)を開園。1923(大正12)年関東大震災で園は倒壊するが、孤児は助かる。関西方面の知人を頼り、各地で救援依物資募集の演説会を開催、布団など1千点余の寄贈を仰ぎ、熱意と犠牲的精神をもって被災者の寒さと飢えを救った。キリスト者として、聖アンデレ教会の再建にも尽力。育児園は館山町沼(館山小学校裏手)に移転、その後の消息は不明のままである。

F 万里小路通房伯爵旧居跡と促成栽培農場跡

までのこうじみちふさ

万里小路通房 1848(嘉永元)～1884(明治17)

父は幕末の尊皇攘夷派公卿として国御用掛を務め、本人は幼少時より明治天皇と学問や日常生活をともにした。維新後、英国に4年間留学し、宮内庁御用掛などを歴任。1890(明治23)年、侍従職を辞し北条町新塩場に移住、房州永住を決意、翌年貴族院議員となる。'95(明治28)年、近代農業技術の第一人者福羽逸人を招いて指導を受け、なす・きゅうりを作ったのを機に、安房の促成栽培が始まる。'98(明治31)年、本籍を北条町に移し、社会教育団体「安房大道会」の会長、「日本弘道会安房支会」の顧問となり、1913(大正2)年には後任が決まるまでの7日間だけ北条町長を務める。北条文庫の設置など、教育や文化の振興にも寄与。現在、館山市役所敷地内にあるミカンの木は、万里小路が植栽したもの。震災後は、別荘であった北条海岸の静松庵を本宅とした。

G 詩人山村暮鳥らの療養の地

ぼちょう

山村暮鳥 1884(明治17)～1924年(大正3)

詩人・児童文学者。群馬郡生まれ。水戸の教会へ伝道師として赴任以来、文学運動を活発に展開したが、結核になり、妻方の親戚を頼って転地療養のため妻と2人の娘を連れて来房、1918(大正7)12月～翌年5月まで北条南町(新宿神明神社裏手)に住む。療養滞在中、自己を自然に預ける超俗の精神に辿り着く。友人への書簡に次のような記述がある。「北条は肺病の巣です。よく柵や釣台にあひます。…苦痛はまだ自分をすてず、それによってますます神の愛を知り、人間として強くなるのを感じます。…北条は人気はいい、純です。けれ

つぼのへいたろう

なんよう

坪野平太郎(号：南陽) 1859(安政6)～1925(大正14)

1886(明治19)年東京帝国大学法科卒業後、病気療養のため北条に滞在、英語学校を開き、英語とテニスを教えた。房州が避暑避寒と海水浴場に最適地であることを全国に紹介したといわれる。その後、外交官や大臣秘書、銀行取締役、神戸市長、東京高等商業学校(一橋大学)校長を歴任し、1914(大正14)年より北条に居住、英語学校を再開する。'19(大正8)年、東京小石川に「安房育英会」を建て、安房出身の在京者を援助した。万里小路とともに社会教育団体「安房弘道会」顧問となる。震災後、北条町を去り、神戸市に転居し、65歳で死去。英語学校の門下生には元館山市長の田村利男や半沢良一のほか、吉田十郎(鏡軒店主・元二中PTA会長)らがあり、有為の人材育成に貢献した師を偲んで「南陽会」を組織し、慈恩院に顕彰碑を建立するとともに、善行者や学術優秀な若者らを支援する「南陽賞」を設けた。安房高には南陽文庫が創設され、安房南高では「南陽賞」が復活している。

氏の名言「土地に惚れ 女房に惚れて その上に 仕事に惚れる ひと仕合」

H 海養山龍勢院 ^{こんたいじ} 金台寺

浄土宗鎮西派京都知恩院派。1476(文明8)年の創建、1505(永正2)年鎌倉光明寺の昌誉順道によって開山。四世の豪誉九把は里見義康の伯父にあたりといわれ、里見家より寺領60石と、毎年、仏に供える米50俵が配給されたという。七世正誉上人のとき房州一国の本寺触頭(寺社奉行の命を配下の寺に伝える役寺)とされた。境内の墓地には、「万石騒動」において農民側に加担し、三義民とともに処刑された北条藩の代官行貝弥五兵衛父子の墓や、安房の水泳や柔道の発展に寄与した本田存の墓(分骨)がある。

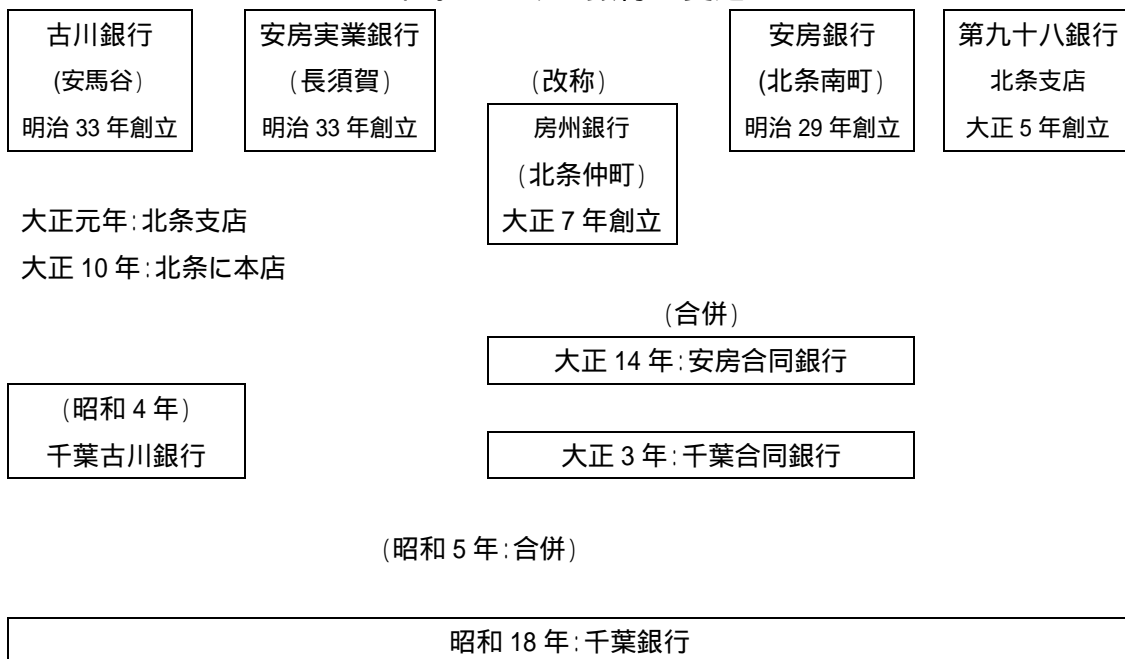
ほんだ ありや

本田 存 1870(明治3)? ~ 1949(昭和24)

群馬県館林生まれ、水泳は水府流太田派を極め、柔道は講道館8段。東京高等師範学校(筑波大学)の水泳師範として、来房。1903(明治36)年から30余年、北条に住み、開校3年目の安房中学で指導をおこなう。当時、日本水泳界を代表する強豪校である第一高等学校と東京師範高等学校が鏡ヶ浦で水練を実施しており、'06(明治39)年、当地で開催された第1回関東連合遊泳大会に安房中学も参加している。師の薫陶を受け、熱心に後進の指導にあたる伝統を継承した安房中学水泳部は「カップ中学」の異名をとり、関東中学大会で常に上位入賞し、'47(昭和22)年には全国中等学校水泳選手権大会と国民体育大会で全国制覇した。

I 安房銀行跡 / 安房郡長 ^{きんじ} 吉田謹爾邸跡 ~ 房州銀行跡(国民金融公庫跡) 第九十八銀行跡

< 北条における銀行の変遷 >



房州銀行本店建物は、大震災にも倒壊せず、その偉容を誇っていたが、1995(平成7)年、所有者(国民金融公庫館山支店)によって建て替えられた。

きんじ
吉田謹爾 1850(嘉永3)～1914(大正3)

長狭(現鴨川市)生まれ。安房郡・平郡・朝夷郡・長狭郡の郡長。1896(明治29)年、郡長を辞し、北条町南町に安房銀行(安房で最初の銀行)を開業、創立発起人には資生堂創設者の福原有信(館山出身)らがいた。'99(明治32)年、房総遠洋漁業株式会社(後の東海漁業株式会社)設立、取締役から社長を歴任した。1909(明治42)年、正木貞蔵とともに里見氏ゆかりの墳墓を修理施工した。翌年、安房電灯株式会社を創立し、安房郡内の電話開通にも尽力。墓は不動院。

まさきていぞう
正木貞蔵 1837(天保8)～1916(大正5)

船形村生まれ、幼少より漢学を学び、15～18歳に広島から当地を訪れた宮本久太郎に漢学・蘭学や算術を学ぶ。1871(明治7)年から4年余、安房国全体の財務責任者である第一・第二大区長在任中、旧来の悪習を破り地租改正は均衡を保ち、育児取締・流行病予防や道路改修に尽力、殖産興業を振興した。1909(明治42)年、吉田謹爾とともに里見氏ゆかりの墳墓を修理施工。汽船で京房間の旅客・貨物の海運業の発展に寄与し、回漕業の尾崎房太郎から北下台公園に隠居所を寄贈された。没後、その功績を称え、北下台には長男清一郎によって「正木燈」と呼ばれる標識航路の燈台が建立された。

ぶこうりょう
J **房総塩業** (大正13年築) / **武香陵酒造跡** (竹吉酒造、元館山市長・故半澤良一郎)

江戸時代から続く塩の卸問屋。震災で倒壊後、立て直した店舗兼家屋が現存している。戦後の混乱期に塩を安定供給させるために建てた倉庫も新塩場に残っている。

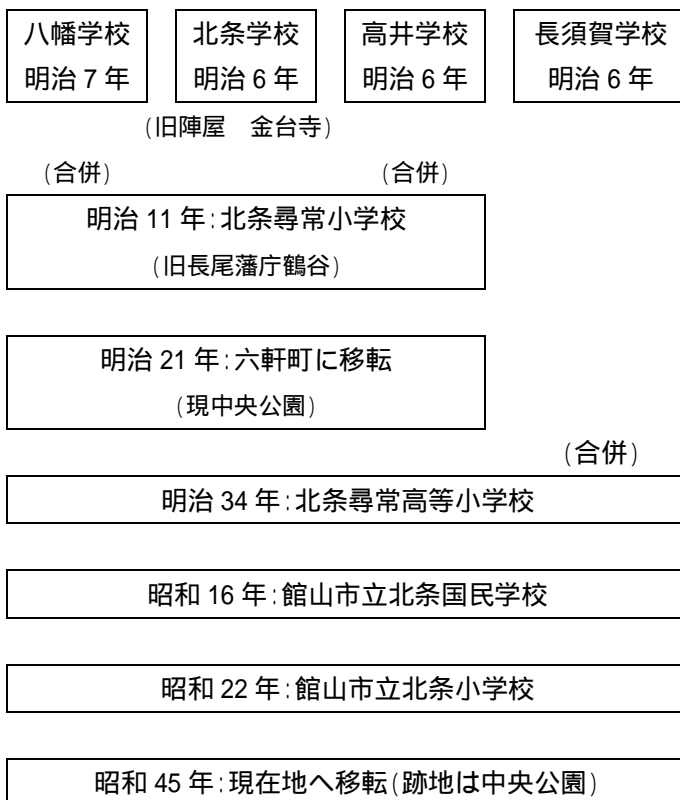
1919(大正8)年、半澤良助が竹吉醸造合名会社を設立。'45(昭和20)年、元館山市長となった長男良一が跡を継ぎ、'49(昭和24)年に武香陵酒造合名会社に改称した。社名は母校である旧制第一高校の寮歌の一節に由来している。いずれも旧道に面している。

K **県立安房南高校**

1907(明治40)年、県下で2番目の女学校として安房郡立女子技芸学校創立、校舎は郡会議事堂。翌々年、郡立安房高等女学校開校。'10(明治43)年、現館山測候所付近に校舎落成および開校式。震災の倒壊を経て、'31(昭和6)年に現所在地に校舎および寄宿舎を建設、移転。'50(昭和25)年に県立安房第二高女、'61(昭和36)年に県立安房南高校と改称。'95(平成7)年、管理棟(木造校舎部分)が県指定文化財となる。

M **中央公園**

<北条小学校の変遷>



ほっしょうじ
L 日照山 法性寺

日蓮宗。1264(文永元)年、中老僧法眼日保上人によって開山。後年、弟子の日聖上人がこの地に一字の草庵を結んだのが当寺の始まり。本堂内には水子子育て観音像が安置されており、境内には 1979(昭和 54)年に市内の産婦人科医師たちと檀信徒の賛同を得て建てられた高さ 4.5m の水子観音像や、樹齢 800 年を超える大榎、芥川龍之介邸より移された灯籠がある。

O サイカチの樹 (元禄津波の傷痕)

サイカチは「皂角子・皂英」などと書き、その名が「再勝」に通ずることや、幹や枝に鋭いトゲがあるため、武家では門や柵の周囲に備えとしたり、あるいは屋敷の鬼門(東北方向)封じとして植えられていた。図書館へ向かう道に、塀からはみ出すように立っている太い木は、元々道に隣接する高山喜美子さんの屋敷地内にあったもの。元禄大地震のときには、この木によじ登って津波の難をのがれたという話も伝わっており、戦前、屋敷周辺の道を拡幅するため、庭を削って道路に提供した際、大切なサイカチの木は残すことにしたという。それだけでなくサイカチは、いざというときには葉が食用になり、その実は洗剤になり、トゲは解毒剤になる。

P 多幸地蔵

イボ取り地蔵。地元では通称「タコ地蔵」として親しまれている。

Q 幸田旅館 (榎本武揚自筆の書)

東京本郷で「幸田館」を開業、1907(明治 40)年に館山で創業。幕末から明治にかけて活躍した政治家榎本武揚が書いたといわれる「幸田館」の書が残っている。現在は三代目の大女将・幸田和枝さんが健在。

R 鏡軒跡 (館山初の西洋料理店)

1915(大正 4)年、北条海岸で西洋料理店(木造瓦葺、平屋建)として創業、国鉄北条線が敷設されてからは六軒町に移転、洋館(洋館造り 2 階建て)を新築。震災後再建。新井で眼科医を開業していた画家・斎藤光雲は中村有楽らと安房美術会を結成し、'24(大正 13)年に第 1 回美術展覧会を鏡軒で開催。

じゅうろう
吉田十郎 1892(明治 25) ~ 1971(昭和 46)

北条 1827 番地に生まれる。坪野平太郎の英語学校に学び、23 歳で北条海岸に西洋料理鏡軒を開業、後に六軒町へ移転。関東大震災で倒壊、直ちに修復し、罹災者の宿泊所として食物を提供したり、救済事業に奔走したので多くの人から感謝された。学校教育については、1922(昭和 22)年から北条小学校 PTA 副会長、市 P 連協議会理事、六三制実施の PR 活動・協力体制作り、館山市立第二中学校の創立、学校売店への援助、旧砲術学校の兵舎払い下げ等に尽力、同行 PTA 会長に就任し、学校設備の充実など物心両面の支援を続けた。文化人との交流も広く、安房の文化振興に貢献した。墓は法性寺。

つくはる
藤田嗣治 1886(明治 19) ~ 1968(昭和 43)

日本の代表的な洋画家・彫刻家。東京生まれだが、出生届は北条村仲町。静岡藤枝から来た長尾藩士の家系で、父は陸軍軍医総監、明治天皇の侍医頭を務め、1868(明治元)年から 1922(大正 11)年まで本籍を北条町仲町に置き続けた。嗣治は、1913(大正 2)年渡仏し、パリ画壇で活躍。